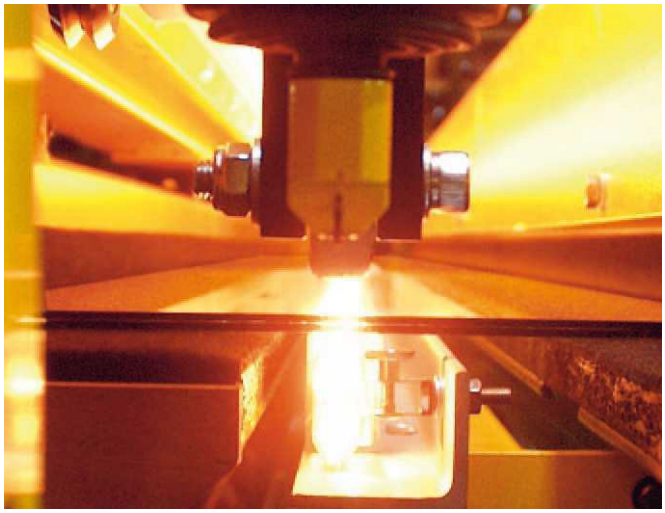
合わせガラスの切断を効率よく処理する赤外線ヒーター

合わせガラスの製造と処理には数回の加熱工程が必要で、そのプロセスにはよく赤外線ヒーターが用いられています。合わせガラスは素板である板ガラスから生産され、中間膜であるポリビニル・ブチラール（PVB）フィルムを貼り合わせたものです。合わせガラスは通常、大きな板ガラス状態であるため、まず小さく切断されます。現在では、ガラスに刻み目をつけ、ガラスを壊してから箔を分離するという方法で行われています。この際、非常に効率よく処理するために赤外線が用いられています。高速で応答性に優れる中波長赤外線ヒーターは、小さな亀裂部分を照射し、フィルムを加熱し、ガラスを切断します。フィルムは、引き離すことによって容易に剥がすことができ、難しい場合には切削工具で剥がします。

エクセリタスのツインチューブ赤外線ヒーターは、最長 6.2m まで製造でき、大きなシートを 1 ステップで切断することができます。



特徴

- ガラスの吸収波長に適した赤外線ヒーター
- ガラスのサイズに適した加熱長の赤外線ヒーターの製作が可能

テクニカルデータ

- 短波長赤外線ヒーター
（エネルギー波長：中波長領域タイプ）
- 高い安定性のあるツインチューブ構造
- 金反射膜

エクセリタスノーブルライトジャパン株式会社
〒112-0012
東京都文京区大塚 2-9-3
住友不動産音羽ビル 2F
Tel: (03) 6902-6601
Fax: (03) 6902-6625
ip.hkk@excelitas.com
www.noblelight.co.jp